

The World Times 一特別号一

1-1 庄司ことみ 2-1 井上穂乃花

先日行われた、瀬谷ルミ子さんによる講演会をダイジェストでまとめました。瀬谷さんや REALs について詳しく知りたい人は、これまでの The World Times、REALs のホームページ、瀬谷さんのツイッター等よりご確認ください！
(平成3年11月11日実施)

武装解除の仕事を志したきっかけ

進路を模索していた高校三年生の時、新聞で一枚の写真を見たことがきっかけだった。ショックを受ける一方で、紛争や平和について学ぶ大学が日本にはないとわかり、**その道の専門家の一人目になれば**、英語以外取柄がなくずっとコンプレックスの固まりだった自分でも世の中で必要としてもらえるのではと捉え、誰よりも早く知識と経験を積もうとした。大学3年の夏にはルワンダに行ったが、壮絶な現実の前に自分の無力を痛感し、社会の課題を解決するにはスキルが必要だということに気づき、日本の NGO でスキルを学びながら、**ニーズはあるけれど専門家のいない分野**を捜して武装解除に辿り着いた。



武装解除から紛争予防へ

武装解除で職を失ってしまう兵士に別の職や生き方を提供し訓練することを20歳台では専門としていたが、殺人の加害者を更生させるのと同じで、必要ではあるが、兵士に家族を殺された遺族は犯人が社会復帰するのを受け入れるしかない。**自分がやっていることは本当に正しいのか**と考えたとき、戦争やテロが起こる前にこれを防ぐためにどうすればいいのかを突き詰めたと思うようになった。

アフガニスタンの緊急支援の現状

現在、命の危険にさらされている人の保護や退避支援を行っている。日本ではあまり報道されないが、それまで当たり前だった職業、例えば音楽家やジャーナリストなどもタリバンに罪とされ、殺害の対象となり、世界のいろいろな人に支援を求めているが誰も返事をしてくれないと、連日何十件何百件もメールが届いている。女性の高等教育やスポーツが禁止され、**命を懸けて抗議している人たちが、いつかアフガニスタンに平和が戻ることを願って**退避支援をしている。

女性支援/立ち上がる女性たち

女性支援は、彼女らを守ってあげようではなく、男性と役割分担して生活し、**平和な社会作りの担い手**になれるかに焦点を当てている。女性が参加した和平プロセスでは、成功率が35%上昇したというデータがある。女性は社会のしわ寄せを受

けやすく、社会で弱い立場にある人、特に子供たちを安全に育てられるかという視点で考えられるからである。

同時に女性達が何の後ろ盾もなく立ち上がる姿を見てきた。ソマリアでは、テロ組織に勧誘された息子たちを取り戻すために100人の母親が立ち上がり、組織の人間に殴られたり蹴られたりする母親を見て目が覚めた若者が戻った。「女性が頑張った」で済ませず、**社会全体がその思いを受け継いで争いを防ぐのが大事だ**。

争いを防ぐ仕組み

REALs のような海外からの支援者はいつかなくなる存在なので、REALs では現地の人が**自分たちの力で問題解決を担い続けられるような人材育成とその仕組み**を作ることに力を入れている。争いやテロには、個人の行動が変わり思想が過激化するなどといった予兆が必ずある。この時周りの人々は彼らの変化に気づくが、警察に相談すると要注意人物リストに載るためたいていの場合放置され、組織に勧誘されて半年~1年くらいで実際に行動を起こしてしまう。そこで、地域ごとに住民の意見を聞いてどんな予兆があるのか分析し、予兆が出た時点で争いを食い止めるための仕組みをつくる。たとえば学校の先生や女性の警官などにカウンセリングの研修をして、中立的な窓口で相談できるようにする。たった1人でも戦闘員になることを防ぐと、何十人もの命を救うことにつながる。**起きる前に防ぐことが大切**。

現地の人と警察

現地の警察は、住民からお金を巻き上げるなどして市民から信用されず犯罪が放置されているので、REALs は警察官も訓練している。まず住民が安心して相談できるように、市民との関わりについて研修し、その警官との話し合いを通して住民との信頼関係ができると、有事の際に通報できるようになり、うまく事が解決されて、さらに**信頼関係が深まり市民と警察が協力して安全な社会をつくれる**ようになる。

民族対立をなくすために

民族の違いが村人や避難民同士の争いにつながるがあるので、同じ社会で共存するための取り組みをしている。あの民族なんて大嫌いだと言う人たちを、あえて協力しないとできない仕組みを作る。

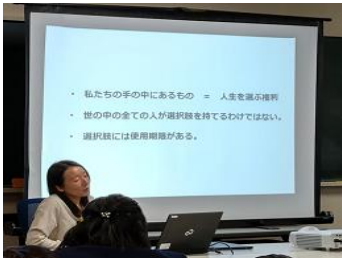
共存、平和、和解というハードルが高いものを要求される気持ちになってしまうが、**好きにならなくてもいい、嫌いでもいいけど、お互**

いにメリットがあるから一回試しにやってみないくらいのつもりでやってもらう。そうすると、あの民族が約束を守ったというような体験から、殺しあったり殴りあったりするよりも共存の方が生活がよくなって生き延びられる可能性が高くなると気づいてもらえる。実際に生活がよくなり、成功体験を積むと、自分たちの中から、その**共存を子供たちの世代にも受け継いでほしい**という動きになっていく。



難しいけど大切な、人材育成

地域を何とかよくしたいという志のある人を選んで問題解決の担い手を一から育成している（2020年だけで297人）。NGOがいなくなった後も彼らが平和の担い手となり、また、貧しい地域で育った人が平和の担い手になれるということで子供たちの憧れの存在になっている。日本から行く私たちが色々やった方が手っ取り早いけど、**時間はかかっても現地の人を人材として育成したほうが次の世代まで効果が波及する。**



自らの人生を切り開く選択肢と行動

ルワンダの親子の写真を見て、自分の手の中には人生を選ぶ権利がある、ということに気づいた。あの親子はあそこでもいくら叫んでも助けてもらえないが、一方自分は努力すれば道を切り開ける。その**私が持っている選択肢は世の中の全ての人を持っているわけではない。**一方、**一個一個の選択肢には使用期限がある。**気づかぬうちに期限を迎えるものもある。今日の前にあって躊躇しているものはこの先もあるのか、今チャレンジしないとしたらそれは自分が決めたことだから、もしそれがなくなっても、他の人が始めて自分が必要とされなくなっても、それは自分の責任と意識する。選択し決めたら行動するかしない。最初は小さな一歩でいい。これを繰り返すのが人生だと思う。

心が震えた瞬間を大切に

何がしたいかわからない人は、**自分の心が震えた瞬間を何かに書き留めておく**といい。自分を知る事、興味があること、自分が苦にならず没頭できることを見つけるのが自分の人生をコントロールできる一番の秘訣。あとで読み返すと共通点が見つかる。心が震える瞬間は忘れがち。だから記録して思い出せるようにしておくだけでもどういうことに震え、どういうことを軸に生きていくか考えるきっかけになる。**自分が人生を自由にデザインできる権利を持っている**ということを知ったうえでその権利を活かして人生を歩んでほしい。

一歩踏み出す

周りの人に知らせるのも一つの行動で、世界とつながる。ネットで検索するだけでも**頭の中で化学反応が起きて次に見える景色が変わり、その繰り返しは原動力になる。**そして、紛争地の人たちのことを身近に感じて、年に1回でもいいから考えて何か行動して、そのことを周りの人に話して、化学反応を波及させてくれたら嬉しいです。



質問1. 心を奮い立たせる方法は

この仕事をしていると燃え尽きてしまうことが多い。自分がどこまで行ったら燃え尽きるか知った上で**強制的に休ませる**ことが必要。何もしない日を設け、また立ち直って再び歩き出せるように。**心なんて折れてなんぼだから若い内に経験できてよかった**と思う。破天荒なチャレンジをしてもそれが世界ではあたりまえだから、**日本のスタンダードにはまらず**やっていてもらいたい。

質問2 日本と現地で見えるもの

日本人は**白黒はっきりしたがるけど両方あっていい。**現地にいるから現地が見えるわけではない。どれだけ複雑なものを複雑として理解でき、それぞれを否定しないでいられるかが大事。多様性もこんがらがっていて、否定すると悪者になる気がするが、**相手を傷つければ自分の意見があつていい。それが多様性。**その思考を持っていればどこにいても、色んな立場を思い回りながら行動し続けられる人になれるのだと思う。

著書「職業は武装解除」p58～ 図書館にあるので是非読んでみてください。



質問3 武装解除に至った経緯

イギリスの紛争解決学の大学院に行ったが、そこですら武装解除の専門家がいなく現場に行くしかないと思い、学生時代にボランティアしていたNGOの縁でルワンダに行った。が、武装解除ではなかったので、シエラレオネの国連PKOの事務所がある高級ホテルに泊まって専門家や政府のトップの話を聞いて日本政府に報告書を出したところ、これを読んだ人が国連ボランティアの仕事に誘ってくれた。それがREALsの前身の団体の人だった。**行動を起こしたことで次につながる。見た人に化学反応で次につながる。**経験が積めることが嬉しく、恐怖心より好奇心が上回った。若い、今しかできない行動を起こしていくことが大事。

質問4 一番悩んだ決断

1つはアフガニスタンに行くかどうか。国連職員か、日本政府の外交官としてアフガニスタンの武装解除を行うかの選択で、**どっちのほうが未知の体験か、チェックリストを作って一週間位悩み、アフガニスタンを選んだ。**

もう1つは国連を辞めて今のREALsに来たとき。「日本はお金を出すのに専門家がない。外交政策も筋が通ってなくて、平和国家とか言いながら、全然平和の実務がなっていない」と愚痴っていたが、ある日外野席からヤジを飛ばしている自分が恥ずかしくなった。日本のポテンシャルを活かした平和支援は自分がやるべきことだとふと気づいた。**やらないでよくと劣等感と後悔とともにずっと頭に残り続ける**と思い、日本の組織で働くことを決断した。

同時に**自分を前に歩かせるために退路を断った。**周りの人に「この組織を立て直せなかったら紛争地の仕事から身を引く」と言って外堀を埋めた。人生の重要な節目の**ここぞという時にやると行動を起こすための原動力**になる。自分でここぞっていう時が分かると思う。

講演会を聞いて

自分が置かれた状況に対して悲観的になって嘆くのではなく、自分が興味のあることは失敗を恐れ過ぎず挑戦してみる大切さを感じました。

これからもっと大きな壁にぶつかっても瀬谷さんのように強くたくましく、心に傷ができることをこわがらず生きていきたいと思います。

テロ組織というのは心から強く政府に反発している人たちの集まりだと思っていたが、そこには多くの誘惑によって引き込まれ、抜けたくても抜けられない人もいることに驚いた。

考え方や視野が以前よりも広がったと感じます。そして選択肢の使用期限や心の震えの期限についての話は、絶対にやりたいというものを見つけられていない今の自分にとって、とても参考になるものでした。

負けている側、苦しんでいる側が必ず正しいという見方をしないようにしようと思った。両方の心情を理解して、どちらも共存できるようにしないと解決にはならないと分かりました。

「世界中には選択肢を得られない子供たちもいる」という発言で、自分がこんなところで夢を諦めるようなことをしてはいけないと思うことができました。

政治経済の授業で難民問題、地域紛争について学んだ。日本史の授業では（一部世界史でも）、対外戦争や紛争のことも関わっていた。しかしそれらはすべて権力者、すなわち政治の面でしか捉えられていないものなのだとわかった。実際には何万もの小さな命が失われていくにも関わらず、それを政治権力という一面でしか見られていないということ、実際に最前線に自ら足を運んでいる人の話で痛感した。

難民キャンプ内での民族対決という難しい課題が、共同で作業をするという小さなことで改善される話に驚き、一人一人の心情の変化が国際的な問題を左右すること、地道に小さなことから行動することの大切さを知りました。

自分がいなくなったときに状況が悪くならないように活動するのが本当の「優しさ」なのだと感じました。私自身部活で後輩を指導するけれど、効率を優先してしまうことがあります。でもそれは“今”の解決にしかならなくて結果的に“未来”の後輩達が困るだけなので、次につながる指導をして育成していかなくてはと思います。

率直に、自分は紛争地域の現状について全然知らなかったと痛感しました、紛争地域は戦争がなくなったら平和になると思っていたけど、原因を解明して、その後生活がなければ治安の改善はできないとわかりました。

紛争地でのカウンセリングや異民族同士の争いの解決の話から、自分たち（紛争から離れた人たち）は問題を複雑化し目を背けがらだけれど、一つ一つを見ると、結局は誰もが持ち得る感情が生み出したもので、そこに寄り添った地道な信頼関係の形成が解決策の共通点だと思うと、紛争がより身近なものに思われました。

自分も進路を考えなければいけない時期に差し掛かっているが、無限にある選択肢でも使用期限があるから、思い立ったらどんなに小さな規模だとしても行動して自分の人生を切り開いていきたいと思いました。

機会がないからあきらめるのではなくチャンスとみなす。経験して考えてを繰り返して、さらに良い策を考える。自分のためがいつか人のためになるという捉え方がかっこよくてすごく響きました。

自分の人生を変えることができるのは自分しかいないのだから、本当にやりたいことができるチャンスがあるうちに、おかれた環境を言い訳にせず自ら掴んでいくしかないのだと強く思いました。

編集後記

▶今回の講演で私は、事前準備の段階で本を読んだりテレビ番組を見たりする中で瀬谷さんの行動に感銘を受けていたので、実際にお会いできてとても嬉しく、貴重な経験になりました。また、記事を書くことで振り返ることもできたので、皆さんも壁にぶつかった時などに瀬谷さんの言葉を思い出してみてください。この記事がその一助になれば幸いです。（庄司）

▶直接お話を聞くことで、瀬谷さんがこの仕事にける熱意をより強く感じ取ることができました。機会がなくても、様々な困難があっても、自分のやりたい事を貫き通す姿勢はとても格好よく、私もそのように生きていきたいと思いました。今回の記事は少し長くなりましたが、講演会の内容を濃縮して作成したので、忘れてしまったことを思い出すのに是非活用していただければと思います。（井上）

